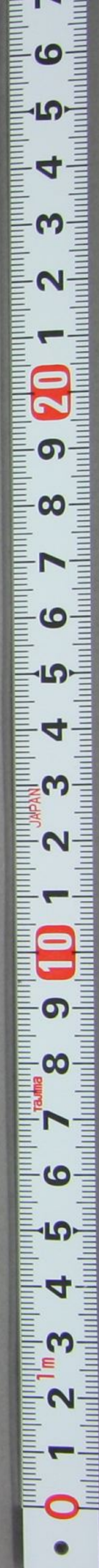
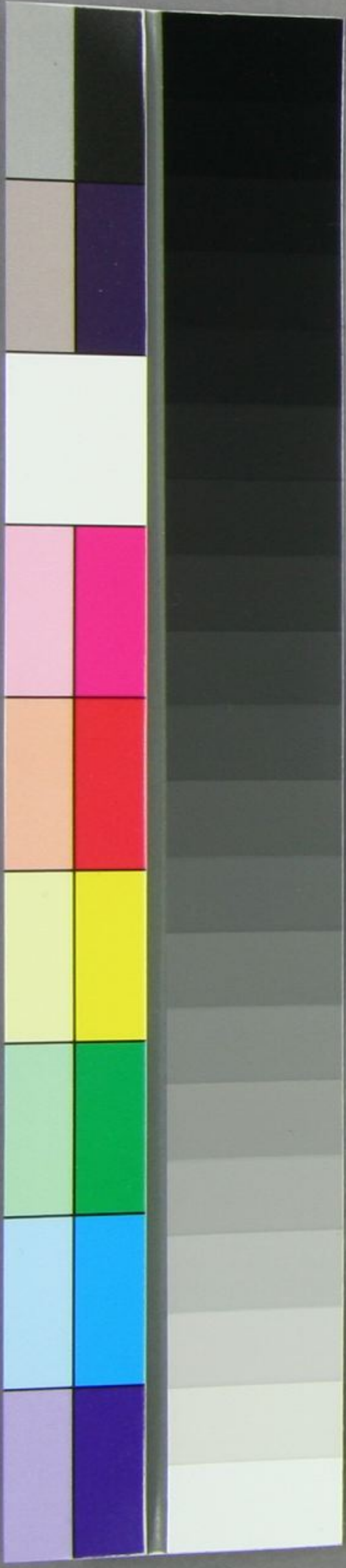


經濟界救濟之儀ニ付建議

謹テ按スルニ目下ノ經濟界ハ一日モ之ヲ看過スルカラスルニト
相考候此際ニ於テ之レヲ屋疑スルカ如キハ政党内閣其レノ
勢望ニ關スル事大ナリト被存候由テ閣下ノ在野ナリト時
内国公債ヲ賣上スルキレトシ五年利付公債ヲテ額面ノ價
ヲ保タシメサルカ如キハ不可ナリト事ヲ唱道被遊又板垣伯
在野ナリト時幹線鐵道國有ノ事ヲ主張被遊候事ハ
国民萬衆ノ知悉スル所ニ有之然レニ政党内閣樹立被遊
候上ハ假令鐵道國有論ノ利害アラストモ之レノ歐亞
大陸諸國ノ實蹟ニ就テ考フルモ鐵道國有後ノ施設



宜しきを得るべき決して国益ならずと申し難かるべし要は唯
其旨其職ノ注意如何に有之と相考能結局国民
ニ百と言質ヲ捉へて以テ之カ實施ヲ見よ此止むべし
相考便而自下經濟界ヲ按るに必ラ此ノ二法ヲ除
シ外ニ救済ノ策無之と相考能畢竟内国公債
ノ買上テ平常公債ノ價格ヲ保つとるモ公債ノ所持人
全国第一流資本家及銀行家ヲ除ク外ニ有之間
數實際困迫ヲ極メて在る實業家ノ救済ト相成
候効果ハ實ニ僅クたんてト相考能然レニ全国ノ幹線則
自由竟唱道ニ存し日本甲武山陽九那四鉄道ヲ買収

スルニ無慮一億四千万圓ノ資金之ヲ歐亞諸國ノ
買収例ニ倣ヒ政府公債ヲ發行シテ之ヲ交付シテ以テ
買収ヲ結ぶるトキ則五厘利付公債ヲ以テ鉄道ノ利
益ヲ五厘標準トシ買収談ヲ右四鉄道大會社協定
ヲ試み候今後少數經濟界回復ノ後ニハ會社ヲ應心
託致ス間敷はりモ目下ナラ充分好結果ヲ得テ買収
假約ヲ結ぶに臨時議會前於テ買収議提提出準備
可相成カ勿論會社モ夫々順序モ有之株主總會
ヲ經サレ假約正ヲ訂結スを得んヘキニヨリ今日ノ
如キ千歳ノ機ヲ逸去セシメサレ様仕度便而シテ一方

ニ於テ三朱利付新整理公債ヲ發行し之ヲ外國市ニ
賣リテ我内國ノ五朱利付公債ヲ整理買上其價格ハ
閣下曾テ唱道セラルカ如ク五朱公債ニテ額面ノ
市價ヲ保ツテ度トシ不斷ニ之ヲ決行し候て此ニ策
ニ據テ優ニ目下ノ經濟界ヲ救済スルニ足ルモノト相考候
私設鐵道買上ノ爲メニ餘リニ一億五千萬圓ノ五朱利付
公債ヲ内國へ放散致し以上ハ公債買上ヲ請フ者勿ク
蝟集シテ政府之ニ堪ヘサルトシテ者可有之然レ是
或ヒハ大ニ豫想ト異トシ可有之候何トシハ是正四鐵
道ノ株式ヲ所有シタル者ノ中ニ貴族其他富強家ノ

世襲財産ト爲ラレモ可有之其他トモモ東ニ南鐵道
株式ヲ政府公債ト交換シタル迄ニ有之恐ラクハ鐵道買
上ノ公債ハ半以上買上テテ請フニテ止ムラント存候殊ニ
政府何時ニモ五朱公債ノ額面ヲ買上クシテ意ヲ多ク
候以上ハ彼ノ正貨ト兌換券ト主體人無キカ如クナルト存候
殊ニ兩三年前ノ現在五朱公債ニシテ百十圓余ノ價格ヲ
保チ居ルカ事實ト有之ニテ見ルニ政府ハ
鐵道買上ノ爲メニ一億四千萬圓ノ五朱利付公債ヲ
國內へ散布スル同時ニ臨機特別ノ高方トテ制限
外保証準備兌換券ヲ凡六七十萬圓ノ額ヲ決

心ヲ爲サ公債買上ニ其家モ差入有之間敷而テ除
三朱公債ヲ外國ニ募リテ正貨ヲ輸入シテ最前存貯
トス保証準備ヲ正貨準備ト爲ルコトニテ一向
經濟上ニ波瀾ヲ生ズルキ事有之間敷也

外資ヲ輸入スルキ經濟界膨脹スル事勿心
流出スルコト設ク者有之然モ政府之ヲ爲スルモ内地難
居曉ハ外資ノ流入ニ難カハ是畢竟自國ノ果ニ未
熟トク見テ自ラ取得セ先問ニ他人ノ爲メモ心ヲ取ラズト
一極ニ唯各人個々ニ外資ヲ輸入スルキ不利尙モ
契約ヲ爲スル免ル(カラズ)自然ノ結果ニシテ則日本國

不利尙モ分辯有之也

鐵道國有論板垣伯、天下萬衆ニ向テ唱破ヤリ
タリ亦誠一母貫、向伯ニシテ其事ノ行ハ先時向伯
ハ社衆(對)シ責任ヲ負ツル(カ)ズん結果ト相成可申
現今ノ憲政尙ハ其處ニハキ、外敵ニテテ内亂ニテ
此處閣下ノ鴻量ヲ以テ板伯ノ意見ヲ容ルル自由
尙ヲシテ不平等ナルトモ憲政之治萬歲ヲ謀ルコト國家
ノ爲メ我々ノ希望スル所有之也

畢ニ歸シテ一言シヨ王ニ我國第一流金條家ニシテ日本銀行
總裁ノ職ニ在リ、權力平均ノ憲政主義ニ及ルルニテ本人

其人爲メニモ世人ニ宛名ヲ負セラルルカ如キ甚ク其ノ事ノ非
ニ平存假日本銀行流儀ノ如キ身自天賦ヲ有セテ遠任
者ニテモ国民ノ安堵ヲ得難カシ目下實業社與ニ平
充滿ス固ク事ト爲假且前段述ルル如ク臨機特ニ
制限外之擔當存約半現流儀ニ如何可カルハ其事
須ク即高松アツクホシク奉存候
右奉建定候也

靜岡縣前代議士

明治三十一年八月

高松町人福島勝太郎再拜

内閣總理大臣伯爵大隈重信閣下



親展

總理大臣府
大隈重信閣下
東京市
本町二丁目



補身功勝本部